

## 子供たちが主体的に活躍できるための「学校行事の指導計画」づくり(例)

行事名	みんななかま！全員オリエンテーリング		種別(遠足・集団宿泊)的行事	参加(全)学年		
児童の実態	(1)学習や仕事にまじめに取り組む (2)主体性や積極性に欠ける					
地域の実態	(1)郊外の田園地帯。自然環境には恵まれるが、それを生かした活動は限定的					
育てたい力	(1)自ら課題を見つけ、主体的に取り組む力 (2)周囲の人間とコミュニケーションを図りながら協力する力					
指導目標	・全校児童が年齢の枠を超えて、地域の自然に親しみながら仲良く過ごす ・集団活動を通して公衆道徳を身に付けながら行動の仕方を身に付ける					
実施日時	令和4年11月 9日(水) 9時 30分～ 12時 0分 雨天時( 11月16日に延期 )					
時 数	総時数	時間	関連する教科等	(生活科)1年「たのしいあきいっぱい」1時間		
評価規準 (観点)	よりよい生活を築くための知識・技能		集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度		
	・全員遠足の意義や目的の理解 ・必要な行動の仕方を身に付ける		・よりよい集団活動ができるよう、考えたり協力したりして実践している	・地域のよさに关心をもち、積極的に活動しようとしている		
学習活動	指導内容	教科等時数	児童の活動	指導上の留意点・評価		
事前の活動	○目的の理解 ○自分たちで選択・決定する(主体性の育成) ・安全指導	学級活動 0.5 児童会活動1	①遠足の目的を理解し、個々のめあてをもつ ②現地で何をやるか考える(縦割り班遊びの経験や遊びガイド※1の活用)	①目的・目的地、活動時間、往復の行動は教師が決める※2 ②活動内容は児童が決める ④活動に取り組む姿		
当日の活動	○異年齢の仲間と仲よく、楽しんで活動する(人間関係形成)  ○役割分担で目的を達成する ・自己有用感を得する(自己実現) ○安全に行動する ・集団行動の体得(社会参画)	学校行事 4	①健康確認 ②安全指導(困ったときはどうする) ③開会式 ④往路歩行 ⑤活動1「オリエンテーリング」・ポストを廻る ⑥活動2「各班で集団遊び」・ネイチャーゲーム ⑦集合 ⑧復路歩行 ⑨閉会式 ⑩学級指導	①学級担任が教室で ②担当教員が各班で ③校長(意欲・意義・興味等) 児童会(スローガン) ④⑧経路に教職員を配置 ⑤⑥教員が各所でチェック、安全・体調の管理・確認 ⑦考えて行動できる恩 ⑦人数・安全の確認 ⑨児童会(成果の発表) 担当教員の評価 ⑩学級担任が教室で、体調・怪我・事故等の確認 ⑪児童の言葉、達成に向けて取り組んだ姿		
事後の活動	○達成感を味わう ○課題を発見し次に生かす	学級活動 0.5 児童会活動 0.5	①学級会 ②縦割り班長会	①振り返り(話合い・感想) ②班長会で、成果と改善点を話し合う ・自己評価・相互評価 ⑪自己有用感をもつ		
評価	どの場面で		どのような方法で			
	事前活動(話合い、準備活動) 当日(活動の中で) 事後(振り返り)		・児童の抱負(ノート等)、観察(話合い、計画・準備を観察表) ・教師の観察(活動への参加を観察表等)・児童の報告 ・児童の振り返り(話合い、アンケート等)			
配慮・支援	障害、特性、会話、性差等	トイレ対応、休憩時間、危険の回避、意思疎通、個別支援態勢・人的配置				
危機管理 安全対策	予防的措置	・実地踏査確認事項チェック表 ・事前の健康チェック ・緊急連絡先の確認				
	当日の配慮事項	・当日の健康チェック ・救護体制(役割の確認) ・非常事態対応				
	事後の確認	・体調・怪我・事故等の職員間での確認と共有 ・反省を次回に生かす				

(※1)集団遊びの例を記載した遊びガイドを作成し、遊びのヒントとする。(年間縦割り遊びに利用)

(※2)児童の自発性や自主性を重んじつつ、教師が担当すること、児童が選択・決定できることを区別する。

## 学校行事「指導計画づくり」の視点

### 1. 特別活動の目標及び学校行事の目標と内容(小学校学習指導要領より抜粋・編集)

特別活動の目標	①集団活動 ②自主的・実践的 ③集団や自己の課題を解決する (1) 他者と協働して活動し、行動の仕方を身に付ける (2) 課題解決のために話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりする (3) 自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする
学校行事の目標	①全校又は学年の児童で協力し、②よりよい学校生活を築くための <u>体験的な活動</u> を通して、集団への <u>所属感</u> や④連帯感を深め、⑤ <u>公共の精神</u> を養いながら、第1の目標に掲げる⑥ <u>資質・能力</u> (上記特別活動の目標参照)を育成することを目指す。
学校行事の種類	各行事の内容
1. 儀式的行事	学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳肅で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにする。
2. 文化的行事	平素の学習の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりする。
3. 健康安全・体育的行事	心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにする。
4. 遠足・集団宿泊的行事	自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようとする。
5. 勤労生産・奉仕的行事	勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようとする。

### 2. 特別活動の全体計画と年間指導計画、学校行事の指導計画の内容例(小学校学習指導要領解説特別活動編)

全体計画の項目	年間指導計画の項目
①学校教育目標 ②特別活動重点目標 ③各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間などとの関連 ④学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標と指導の方針 ⑤特別活動に充てる授業時数等 ⑥特別活動を推進する校内組織 ⑦評価	①指導目標 ②指導内容 ③指導の順序 ④指導方法 ⑤使用教材 ⑥指導の時間配当 ⑦評価

(学校行事の年間指導計画の内容)  
 ○各行事のねらいと育成を目指す資質・能力  
 ○五つの種類ごとの各行事を実施する時期と内容及び授業時数  
 ○学級活動や児童活動、クラブ活動、各教科等との関連  
 ○評価の観点

### 3. 学校行事の指導計画作成の留意点

#### (1) 指導計画作成の留意点

- ①「学校の教育目標→学校行事の目標(指導要領)→児童の実態と育てたい力→行事の目標→評価」までが一本でつながることが大切。
  - ア. 児童に付けたい力を明確にする→「この行事で子供にどんな力を付けるのか」
  - イ. 評価規準の設定→「この行事でどんな力が育てられるのか」
- ②子供たちが主体的に活躍できる学校行事にするために
  - ア. 「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む」ために
    - ◆児童が選択・決定する余地を大事にする。
    - ◆必要な資料や情報を自分たちで集める。
    - ◆結果を自分たちで振り返り評価する。
  - イ. 「互いのよさや個性、多様な考え方を認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担う」ために
    - ◆(集団)全員で合意形成を図る。
    - ◆(集団)全員で役割を担う。
    - ◆すべての児童が役割を果たすことを経験し、自己有用感を高める。
- ③評価は、形成的な評価で(段階的に、改善を図りつつ、達成に向けて)→理解が深まればできるようになる。